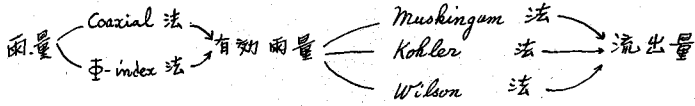


(10) 雨量より流出量の計算方法について

建設省土木研究所 會員 竹内俊雄

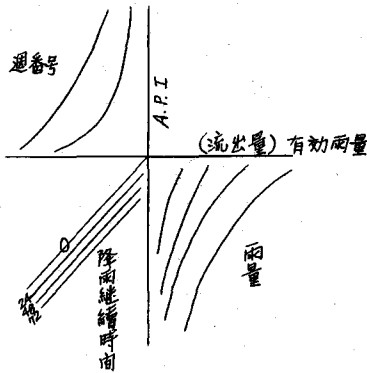
建設省土木研究所が神流川洪水観測所で観測している資料につき雨量と流出量との関係を計算した。



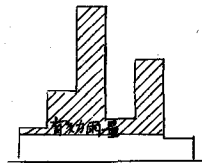
流域は6分し、各区分内に代表雨量を考へ、此等に lag を適當に考慮し加へ合せたものを流域の代表雨量とした。

1) 雨量より有効雨量を求める法

a) Coaxial 法 (Linsley and others: Applied Hydrology p. 421)



各区分雨量について此の方法より有効雨量を計算した。



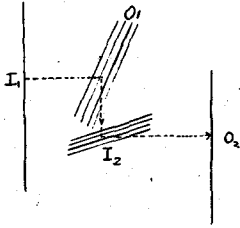
b) Φ-index法

2) 有効雨量より流出量を求める法

一般の Flood Routing の方法は河道の上下2地点間について流入量と流出量との関係を示して居るが、此の方法を有効雨量と流出量との間に適用した。

a) Muskingum 法

b) Kohler 法 (Linsley and others: Applied Hydrology p. 527)



9) Wilson 法 (A.G.U. 1941)

$$S = T \frac{dO}{dt}$$

$$O = I - T \frac{dO}{dt}$$

此の時間変換係数  $T$  を流出量の 函数と考へて同式により流出量を求める。